

中部ブロックにおける社会資本整備重点計画(原案)

現状と主要課題

- ・我が国の経済成長を支えるものづくり中枢圏
- ・多種多様な地域資源と増加・多様化する観光需要
- ・加速する社会資本の老朽化
- ・2027年リニア中央新幹線開業に向けた動き
- ・切迫する南海トラフ地震と頻発・激甚化する自然災害
- ・人口減少・高齢化社会の進展

中部ブロックの将来像

暮らしやすさと
歴史文化に彩られた
“世界ものづくり対流拠点-中部”

(1)世界最強・最先端のものづくり
産業・技術のグローバル・ハブ

(2)リニア効果を最大化し都市と地
方の対流促進、ひとり一人が輝
く中部

(3)南海トラフ地震などの災害に強
くしなやか、環境と共生した国土

社会資本整備の重点目標とプロジェクト

【重点目標】

(1)ものづくりなどの産業立地環境の改善と
リニア効果の最大化

(2)社会資本の戦略的な維持管理・更新

(3)災害特性と地域の脆弱性に
応じた
災害リスクの低減

(4)地域の個性を活かし対流を促進する
持続可能な社会の形成

【プロジェクト】

ものづくり中枢圏・中部強化プロジェクト

リニア効果最大化プロジェクト

新たな中部観光交流圏形成プロジェクト

戦略的なメンテナンスサイクル構築プロジェクト

メンテナンス産業強化プロジェクト

南海トラフ地震に備えた国土強靱化プロジェクト

スーパー伊勢湾台風等
大規模自然災害対策プロジェクト

適切な国土保全強化プロジェクト

地方創生地域支援プロジェクト

中部の魅力を高める快適安心生活環境プロジェクト

環境共生、美しい豊かな国土づくりプロジェクト

中部ブロックにおける社会資本整備重点計画(原案)

プロジェクト1-1 ものづくり中枢圏・中部強化

重点目標1 ものづくりなどの産業立地環境の改善とリニア効果の最大化
 ・プロジェクト1-1 ものづくり中枢圏・中部強化 ・プロジェクト1-2 リニア効果最大化 ・プロジェクト1-3 新たな中部観光交流圏形成

【主要取組の主な記載内容】

【既存施設の有効活用やソフト施策の推進】

- ものづくり産業を支える港湾機能強化
 - 【既存施設を賢く活用したふ頭の再編により、港湾貨物の混在解消や港湾機能の効率性の向上を図る三河港ふ頭再編改良事業(愛知県豊橋市) (H27年度工事中)[H29年度完成]】

【選択と集中の徹底】

- <平成30年度までに事業が完成予定>
 - ものづくり産業を支える道路ネットワークの強化
 - 【東海環状自動車道(一般国道475号東海環状自動車道(西部区間))(関広見～新四日市)(岐阜県・三重県) (H27年度工事中)[一部H28年度完成(東員IC～新四日市JCT)][一部H29年度完成(養老JCT～養老IC)][一部H30年度完成(大安IC～東員IC)]】
 - 【静岡東西道路(一般国道1号静岡バイパス)(静岡県静岡市) (H27年度工事中)[一部H30年度完成(牧ヶ谷IC～丸子IC)(4車線化)]】
- <平成32年度までに事業が完成予定>
 - 安定的な水の供給に向けた対策
 - 【設楽ダム建設事業(愛知県設楽町) (H27年度工事中)[H32年度完成]】
- <平成30年代完成予定>
 - ものづくり産業を支える港湾機能強化
 - 【衣浦港武豊北ふ頭地区国際物流ターミナル整備事業(愛知県武豊町他) (H27年度工事中)[H30年代完成]】

【KPIや主要な指標】

- ・三大都市圏環状道路整備率(名古屋圏)
H26年度 67% → H32年度 約79%

主要取組の事例・期待されるストック効果

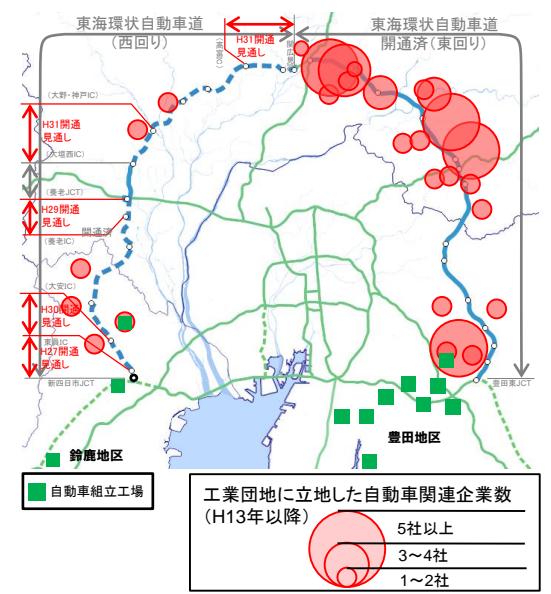
【三河港ふ頭再編改良事業(愛知県豊橋市)】

- ◆三河港では、岸壁延長不足及び混在貨物の解消等の既存施設を賢く活用したふ頭の再編により、港湾貨物の混在解消や港湾機能の効率性が向上
- ◆港湾機能強化の取り組みにより、海外自動車メーカーの整備センターが次々に進出し、地元市の税収が増加



【東海環状自動車道(西部区間) (関広見～新四日市) (岐阜県・三重県)】

- ◆東海環状自動車道などの開通により、沿線地域では工業団地の整備や物流拠点の集積が進展
- ◆平成12年の東回り全線工事着工後、延べ122企業が進出(平成25年まで)し、沿線市町の製造品出荷額等は約1.4倍に増加
- ◆高速交通ネットワークの整備により、IC周辺の土地の付加価値が高まり、物流効率化を支援し新たな企業立地が促進などが期待



中部ブロックにおける社会資本整備重点計画(原案)

プロジェクト3-2 スーパー伊勢湾台風等大規模自然災害対策

重点目標3 災害特性と地域の脆弱性に応じた災害リスクの低減

- ・プロジェクト3-1 南海トラフ地震に備えた国土強靱化
- ・プロジェクト3-2 スーパー伊勢湾台風等大規模自然災害対策
- ・プロジェクト3-3 適切な国土保全強化

【主要取組の主な記載内容】

【既存施設の有効活用やソフト施策の推進】

■総合的な治水対策

【美和ダムの発電用貯水容量を有効活用して洪水調節容量に振り替える三峰川総合開発事業(長野県伊那市) (H27 年度工事中)[H30 年度完成]】

【選択と集中の徹底】

<平成30年度までに事業が完成予定>

■総合的な治水対策

【狩野川直轄河川改修事業(塚本河川防災ステーション)(静岡県函南町) (H27 年度工事中)[H28 年度完成]】

【木曾川直轄河川改修事業(加茂川排水機場増設)(岐阜県坂祝町) (H27 年度工事中)[H28 年度完成]】

<平成32年度までに事業が完成予定>

■総合的な治水対策

【設楽ダム建設事業(愛知県設楽町) (H27 年度工事中)[H32 年度完成]】

<平成30年代完成予定>

■総合的な治水対策

【太田川広域河川改修事業(静岡県磐田市) (H27 年度工事中)[H30 年代完成]】

【内ヶ谷ダム建設事業(岐阜県郡上市) (H27 年度工事中)[H30 年代完成]】

【KPIや主要な指標】

- ・人口・資産集積地区等における河川整備計画目標相当の洪水に対する河川の整備率

【河川整備率(国管理):
H26年度 約72% → H32年度 約75%】

【河川整備率(県管理):
H26年度 約40% → H32年度 約47%】

主要取組の事例

【美和ダムの発電用貯水容量を有効活用して洪水調節容量に振り替える三峰川総合開発事業(長野県伊那市)】

◆既設ダムの一層の活用が求められている中、天竜川では、**既存施設の有効活用**を図る観点から、美和ダムの再開発を実施

◆美和ダムの持つ能力を最大限有効活用するため、**発電容量のうち280万m³を洪水調節容量に振り替え、治水機能を向上**

◆戦後最大の洪水に対応



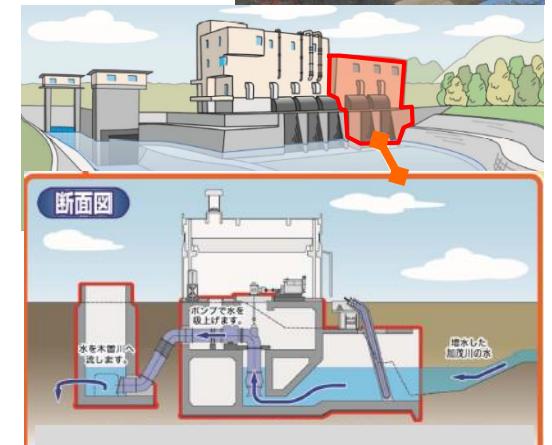
美和ダム	洪水調節容量 1,340万m ³	洪水調節容量 1,620万m ³
	予備放流量 302万m ³	予備放流量 302万m ³
	発電容量 1,035万m ³	発電容量 755万m ³
	死水容量 262万m ³	死水・堆砂容量 921万m ³
	堆砂容量 659万m ³	

↑ +280万m³増強

【木曾川直轄河川改修事業(加茂川排水機場増設)(岐阜県坂祝町)】

◆美濃加茂市では、局地的豪雨により平成22年7月、平成23年9月と**2年連続して**加茂川が**内水氾濫し浸水被害が発生**

◆協議会を設置して国、県、市町と**地域住民**とが協働で平成24年度に**総合内水対策計画**を策定し、この計画に基づき、**浸水被害を軽減**するため、**加茂川排水機場のポンプ増設工事**を実施



中部ブロックにおける社会資本整備重点計画(原案)

プロジェクト4-1 地方創生地域支援

重点目標4 地域の個性を活かし対流を促進する持続可能な社会の形成

- ・プロジェクト4-1 地方創生地域支援
- ・プロジェクト4-2 中部の魅力を高める快適安心生活環境
- ・プロジェクト4-3 環境共生、美しい豊かな国土づくり

【主要取組の主な記載内容】

【既存施設の有効活用やソフト施策の推進】

■ 小さな拠点の形成

【住民の生活に必要な生活サービス機能を一定のエリアに集約し、周辺集落とネットワーク等につなぐ小さな拠点の形成 (H27年度調査・検討中)】

【選択と集中の徹底】

＜平成30年度までに事業が完成予定＞

■ 交通・物流ネットワークの形成

【都市計画道路大野揖斐川線(岐阜県大野町他) (H27年度工事中)[H30年度完成]】

＜平成32年度までに事業が完成予定＞

■ 観光・交流拠点形成

【乙川リバーフロント地区都市再構築戦略事業(愛知県岡崎市) (H27年度工事中)[H31年度完成]】

＜平成30年代完成予定＞

■ 交通・物流ネットワークの形成

【一般国道477号四日市拡幅(三重県四日市市) (H27年度工事中)[H30年代完成]】

【既存施設の集約・再編】

■ 都市機能の集積

【老朽化した既存施設を建替、各機能を集約、高度利用する豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業(愛知県豊田市) (H27年度工事中)】

【KPIや主要な指標】

- ・水辺の賑わい創出に向け、水辺とまちが一体となった取組を実施した市町村の割合
【H26年度 13% → H32年度 50%】
- ・都市計画道路(幹線街路)の整備率
H24年度 61% → H32年度 66%

主要取組の事例

【乙川リバーフロント地区都市再構築戦略事業(愛知県岡崎市)】

◆乙川(愛知県岡崎市)を中心としたエリアを将来に渡って持続可能な中心拠点区域として整備

◆コンパクトシティの主旨のもと、良好な環境を持つ水辺空間を活用し、歩行空間等の整備とともに、民間施設を地区内へ誘導。中心市街地を活性化



【老朽化した既存施設を建替、各機能を集約、高度利用する豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業(愛知県豊田市)】

◆鉄道により分断されている東西の一体的な整備の一貫として、駅と施設間の歩行者専用通路の整備などにより交通結節点としての機能を強化し、駅周辺と中心市街地の魅力づくりを支援

◆暮らしやすく賑わいのあるコンパクトな街を形成

